

令和6年度 大田区立東蒲中学校 自己評価 報告書

令和7年3月7日

○ 本校の概要

<p>1 学校規模 (1)生徒数 378名(第1学年101名、第2学年148名、第3学年129名) (2)学級数 11学級(SR教室拠点校) (3)教員数 26名(男性14名、女性12名)</p>	<p>2 特色ある教育活動 「自他共に大切にし、学ぶ意欲を育てる東蒲中」 「豊かな人間性を育てる・・・小中一貫で生活スタンダードに取り組み、規範意識を育てる。 (1)豊かな人間性を育てる・・・興味関心を高める指導の工夫を行い、分ける授業の実践を展開する。 (2)学ぶ意欲を育てる・・・興味関心を高める指導の工夫を行い、分ける授業の実践を展開する。</p>
--	---

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄								
								評価	人数	コメント						
生予個性測別 る困目力難 標をな1育 未成来社 会を創造 的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	4:生徒アンケートで「授業で発表や話し合い活動の場がある」「授業は分かりやすく、ていねいである」、保護者アンケートで「教員の教え方がていねいで、分かりやすい授業が多いようだ」の問いに対して肯定的評価の回答の割合が80%以上である。	4	生徒アンケートで「授業で発表や話し合い活動の場がある」「授業は分かりやすく、ていねいである」、保護者アンケートで「教員の教え方がていねいで、分かりやすい授業が多いようだ」は94.7%、保護者アンケートで「教員の教え方がていねいで、分かりやすい授業が多いようだ」は91.3%肯定的な意見であった。どの項目も90%と高い評価であった。しかし、教科等横断的な学びなど生徒が課題発見・課題解決力を身に付けられるような取組は十分ではない。総合的な学習の時間を利用し、生徒が疑問に思うことや知りたいと思うことを調べて、互いに発表し合えるような授業づくりに取組んでいく。	A	7	○90%以上が授業は分かりやすいと答えているのは素晴らしいことだと思います。総合的な学習の時間の取組で、疑問に思うことや知りたいことを調べ、互いに発表し合えるような授業づくりの取組みを期待します。 ○一部の生徒・保護者から先生がコロナ代わる教科があり、子どもが混乱しているとの意見がある。 ○非常に高い評価であると感じる。STEAM教育、総合での取組など具体的に知りたい。 ○こどもによって捉え方の違いはありますが、どの先生方も一生懸命やってくださっていると思います。 ○授業の様子は分かりませんのでDとしました。 ○授業態度は非常に良好です。理解を求めようとする姿勢が見られる。STEAM教育に関しては、当カリキュラムになじみが思われる。 ○数値的には取組評価は適切である。創造力、課題解決力についてどのように進めたいのかを知りたい。 ○STEAM教育の取組は生徒達の興味を引き付けられるような内容を継続的にお願いする。						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3:生徒アンケートで「授業で発表や話し合い活動の場がある」「授業は分かりやすく、ていねいである」、保護者アンケートで「教員の教え方がていねいで、分かりやすい授業が多いようだ」の問いに対して肯定的評価の回答の割合が70%以上である。						B	6				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2:生徒アンケートで「授業で発表や話し合い活動の場がある」「授業は分かりやすく、ていねいである」、保護者アンケートで「教員の教え方がていねいで、分かりやすい授業が多いようだ」の問いに対して肯定的評価の回答の割合が60%以上である。								C	0		
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1:生徒アンケートで「授業で発表や話し合い活動の場がある」「授業は分かりやすく、ていねいである」、保護者アンケートで「教員の教え方がていねいで、分かりやすい授業が多いようだ」の問いに対して肯定的評価の回答の割合が60%未満であった。										D	1
②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3	3:80%以上が回答した。	4	生徒アンケートで「学校行事や教育活動を通して、互いを認め合い、相手を尊重することの大切さを理解できた」の問いに対して肯定的評価の回答の割合が80%以上である。	A	8	○行事を通して、クラスが団結することは必須です。衝突もありますが、それを乗り越えてもらい「今」を楽しんで過ごしてもらいたいです。 ○運動会・合唱コンクールは毎年素晴らしく、社会の授業では多くのSDGsについて学んでいると聞いております。 ○非常に高い評価であると感じる。生徒が行事を大切にしていることが分かる。 ○小学校の頃はSDGsについてもこどもから学んでいるとよく聞きました。中学校の勉強に取り入れることは難しいかもしれませんが、学ぶ機会を増やしていけると良いと思います。 ○国際交流等に関して、京急蒲田駅近くに「おおた国際交流センター」があります。その連携企画(英語でのコミュニケーションやボランティアなど)検討はいかがでしょうか？ ○全体で問題に取組む姿勢が認められる。良く纏まっている感想を持ちます。 ○大項目に対して、アンケート内容がどのように関係するのか？また、現在の取組からどのように発展させていくのか興味がある。							
③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3	3:80%以上が回答した。						B	6					
④話し合いや教え合い活動など言語活動の充実に取り組んでいる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上が回答した。	3	3:80%以上が回答した。								C	0			
お世個別 お別れと 目を目標 な2うが る材国を 際育都 成市し ます	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	4:生徒アンケートで「学校行事や教育活動を通して、互いを認め合い、相手を尊重することの大切さを理解できた」の問いに対して肯定的評価の回答の割合が80%以上である。	4	生徒アンケートで「学校行事や教育活動を通して、互いを認め合い、相手を尊重することの大切さを理解できた」の問いに対して肯定的評価の回答の割合が70%以上である。	A	8	○日頃の生活の中にて、行動を振り返り考えることができるような声掛けなども工夫の中に考えて頂きたい。						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3:生徒アンケートで「学校行事や教育活動を通して、互いを認め合い、相手を尊重することの大切さを理解できた」の問いに対して肯定的評価の回答の割合が70%以上である。						B	6				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2:生徒アンケートで「学校行事や教育活動を通して、互いを認め合い、相手を尊重することの大切さを理解できた」の問いに対して肯定的評価の回答の割合が60%以上である。								C	0		
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1:生徒アンケートで「学校行事や教育活動を通して、互いを認め合い、相手を尊重することの大切さを理解できた」の問いに対して肯定的評価の回答の割合が60%未満であった。										D	0
②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4	3:80%以上が回答した。	4	保護者アンケートで、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちも生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しいと言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が85%以上である。	A	8	○数%の生徒の中に、楽しさを求めて学校に行く子ではない子もいると思います。育ち家庭、何でも関わってくると思います。保護者もどうにかしたいとも思います。 ○今年は小学校と連携し読み聞かせや、合唱コンクールリハーサルの参観など、多くの関りが持てたと思います。来年度も引き続き行っていただきたいと思えます。 ○保護者の評価が非常に高い。小学校でも同様の傾向が見られ、この地域の温かさを感じる。 ○改善策にあるように担任の先生、また部活動に関わる先生や音楽の先生などは良くお見掛けしますし、こどもたちからの話にも出てきますが、そうでない方もいらっしゃるの残念です。職員の方がみんなで1つのことに取組む姿を見せて頂けるとこどもたちも見習い、さらによりよい学校になると思えます。 ○学校の敷地内では元気に明るく挨拶してくれます。小学校との連携について、これも先生方が行うのは負担が大きいかと考えます。関係者などがプランを立て、実施するものに先生方もご参加いただく、そんなことはできないでしょうか？ ○朝登校時、地域の方々への明るい挨拶が出来る。友人との登校も多く、情緒の安定が散見される。 ○校内での雰囲気は、落ち着き明るいと感じます。 ○生徒達の雰囲気は地域から見ても良いと思う。小学校との交流等、引き続き努力願いたい。							
③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	2	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						B	6					
④学校行事や教育活動を通して、人権教育の推進を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上が回答した。	4	2:60%以上が回答した。								C	0			
た一個 め人目 のひ目 基と標 礎り3 とが な個性 力と能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通して継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	4:保護者アンケートで、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちも生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しいと言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が85%以上である。	4	保護者アンケートで、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちも生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しいと言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が75%以上である。	A	8	○朝登校時、地域の方々への明るい挨拶が出来る。友人との登校も多く、情緒の安定が散見される。 ○校内での雰囲気は、落ち着き明るいと感じます。 ○生徒達の雰囲気は地域から見ても良いと思う。小学校との交流等、引き続き努力願いたい。						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3:保護者アンケートで、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちも生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しいと言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が75%以上である。						B	6				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2:保護者アンケートで、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちも生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しいと言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が65%以上である。								C	0		
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1:保護者アンケートで、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちも生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しいと言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が65%未満であった。										D	0
			②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。											
③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	2	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。												
⑤小中一貫性のある授業改善プランの作成や、年2回の生活意識調査を実施し、小中一貫教育を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上の教員が回答した。	3	2:60%以上の教員が回答した。	3	1:60%未満であった。										
	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上の教員が回答した。	3	2:60%以上の教員が回答した。												

学 校 別 力 目 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:生徒アンケートで、「ICTを活用した授業が多い」「先生は、勉強についての質問や疑問に丁寧に答えてくれる」の問いに対して、肯定的評価の割合が80%以上である。 3:生徒アンケートで、「ICTを活用した授業が多い」「先生は、勉強についての質問や疑問に丁寧に答えてくれる」の問いに対して、肯定的評価の割合が70%以上である。	4	生徒アンケートで、「ICTを活用した授業が多い」は88.5%、「先生は、勉強についての質問や疑問に丁寧に答えてくれる」は99.4%、肯定的な意見であった。ICTを活用した授業は多くの教科で実施して、教員のアンケートでも協働的な学びを充実させていると96%が回答している。ただICTを使用しているだけでなく、今後は協働的な学びの視点に立って、ICTを有効に活用する力を、研修等で推進して、個別最適な学びを目指していく。教員がICTを活用し、業務量を減らし、子どもと向き合う時間を確保することに対しては64%の肯定的な意見であった。これからも、効率よく仕事を精査し、子どもと向き合う時間を確保する必要がある。	A 6	○便利な世の中になりましたが、何でもかんでも当たり前になっています。30年前の世の中の方がよっぽど「学習」していたと思います。○「教師がやりがいをもって働ける環境」とは具体的にどのような環境なのか、聴いてみたい。 ○多くの先生方は遅くまで学校でお仕事をなさっていて、保護者としてはとてもありがたいと思います。ただ在校している先生が毎回同じ先生なのが、少々気になります。一部の先生にだけ業務が行き過ぎているのが心配であります。 ○中学でもICTを多く授業で活用していることが分かった。教員のアンケート結果より、更なる働き方改革の取組が必要だと分かった。 ○先生方の個別業務がICT化で減らせるなら良いと思います。少しでも定時で帰れる先生方が増えればと思います。1つ気になるのが行事において毎年反省や記録は残されていると思いますが、大きな行事前には2ヶ月半前に動き出していたらとありがたいです。早めに予定が分かるとありがたいです。 ○授業の様子は分かりませんがDとしました。 ○ICTの活用はこれまでも多く見られた。生徒一人一人との向き合いも多く見られる。 ○ICTについてメリットは多いが、デメリットもある。この点をどのように考えているのかを知りたい。 ○丁寧さを工夫しながら、生徒達としっかりと向き合っている先生は、保護者として好かれていない先生はいません。やはり、公開授業で保護者からも評判は悪いです。誰からも好かれる先生(人間)だけにあってほしいです。 ○生徒アンケートの「先生は相談事や悩み事に親切に応じてくれる」に対して、保護者からは一部の先生は応じてくれるが少々、対応に疑問を感じる先生もいるとの事を耳にします。一部の先生の対応で他の先生の評価が下がるのは残念です。 ○生徒の評価が高い。引き続き寄り添った指導をお願いしたい。 ○息子が通っている時は正直もう少し息子の話を公平に聞いてあげて欲しいと思うことが多かったです。娘は上手く先生方と付き合っているようで安心しています。 ○先生と生徒の関係性について、肯定的な意見が多いことに安心です。日頃の関りの様子を把握していないためDとしました。 ○外部からは伺い得ない部分も多いですが、生徒に対する状況の共有を感じる。 ○相談内容はその場で先生が、的確に捉え対応できるとは限らない。これへのサポートが重要と考えます。 ○継続的に職員間で種々のケースに於いて、研修を行い、指導力を高めて頂きたい。	
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特徴を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					3
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。					2
		④生徒が他者の意見を聞いたり、自分の意見を発表したりする活動を設定し、思考力・判断力・表現力を育成する授業を行っている。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。					4
た自 個 め 別 の 目 標 び く 5 を い 支 き 援 い き と す 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:生徒のアンケートで、「先生は、相談事や悩み事について親切に応じてくれる」は94.8%、肯定的な意見であった。生徒の評価は高いが、全教員が生徒に寄り添った指導をできるように、教育相談的な関りももてる技術を身に付けていくことが大切である。特別支援教室の拠点校として、特別支援教室の教員との交流を活発にし、生徒一人一人を複数で見守り、自己肯定感を高めていく取組を行う。WEBQIは年に2回実施されているが、実施するだけではなく、教員で話し合い、生徒の姿を詳しく見守り、生徒一人一人の状況をデータを分析して、対応していく。	4	生徒のアンケートで、「先生は、相談事や悩み事について親切に応じてくれる」は94.8%、肯定的な意見であった。生徒の評価は高いが、全教員が生徒に寄り添った指導をできるように、教育相談的な関りももてる技術を身に付けていくことが大切である。特別支援教室の拠点校として、特別支援教室の教員との交流を活発にし、生徒一人一人を複数で見守り、自己肯定感を高めていく取組を行う。WEBQIは年に2回実施されているが、実施するだけではなく、教員で話し合い、生徒の姿を詳しく見守り、生徒一人一人の状況をデータを分析して、対応していく。	A 4		
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	3					
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3					
		④WEBQIを活用し、個人面談を通生徒の実態把握に努める。	4:全教員(全学級)で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					
安柔 個 心 別 な 目 標 育 造 6 環 境 な 学 習 空 間 と 安 全 ・ 健 康	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:生徒アンケートで、「教材や教え方を工夫している先生が多い」「学校の施設・設備は十分整っている」の問いに対し、肯定的評価の割合が80%以上である。 3:生徒アンケートで、「教材や教え方を工夫している先生が多い」「学校の施設・設備は十分整っている」の問いに対し、肯定的評価の割合が70%以上である。	4	生徒アンケートで、「教材や教え方を工夫している先生が多い」「学校の施設・設備は十分整っている」は98.2%、「学校の施設・設備は十分整っている」は85.8%、肯定的な意見であった。かなりの生徒が肯定的な意見であったが、生徒が意欲をもって取り組めるように、100%を目指していかなければならない。ネットリテラシー教育は教員が100%と回答しているが、今後も継続して家庭と学校で連携して、ICTの使い方を考えていく必要がある。防災活動においては、生徒のD級ボンプの活動を止め、生徒が救命救急の講習を受講させ、地域に役立つように工夫していく。	A 8		
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3					
		③セーフティ教室やネットリテラシー教育を行い、生徒の防犯に対する意識を高める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4					
		④ICTを活用した授業を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3					
学 校 学 校 別 を コ ・ 目 的 ミ 家 標 く ユ 庭 7 リ ニ ・ ま た 地 域 の 核 運 と 携 し て 協 働 の 働 き よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:保護者アンケートで、「学校の様子を詳しく保護者に伝えている」「学校は地域力を子どもたちの教育活動に生かしている」の問いに対して、肯定的評価の割合が80%以上である。 3:保護者アンケートで、「学校の様子を詳しく保護者に伝えている」「学校は地域力を子どもたちの教育活動に生かしている」の問いに対して、肯定的評価の割合が70%以上である。	4	保護者アンケートで、「学校の様子を詳しく保護者に伝えている」「学校は地域力を子どもたちの教育活動に生かしている」は95.7%、「学校は地域力を子どもたちの教育活動に生かしている」は86.9%である。学校の様子を生徒が保護者に伝えている肯定的な意見は高かったが、このアンケートの回答すら保護者全員に届いていない可能性があるため、実情はもっと低いと考えられる。教員の「生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している」の肯定的な回答は68%であった。コロナが影響し、地域との関りが少なくなったため、現在は地域や町会との関りを深めて、東蒲中生を知ってもらおうと努力している。	A 6		
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2					
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会、学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3					
		④保護者の相談等を丁寧に対応し、保護者からの理解と信頼を得ている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3					
○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す									